

一人ひとりの笑顔が町を元気に！

福島町長 鳴海清春



活用され、約3億以上の経済効果を生み、町内経済の循環に寄与し、地元企業の事業継続に繋がっております。

しかし、一方で基幹産業であるイカ漁の不漁が続いており、漁業者及び加工業者の経営を直撃しており、今年度のイカ漁に期待を寄せ

るものであります。当町は、漁業を基幹として栄えた町であり、浜からの生産力を高めることがまちの経済の安定に欠かせないものとなっております。

養殖昆布などの前浜の生産の安定と、付加価値による収入の増大を図る必要があります。就任以来、思いやりのある行政を目指すと

ともに、産業を基軸に笑顔の循環をめざす取り組みを進めておりま

すが、一定程度、産業の土台や基礎を築くことができませんでした。

今年度は、大型事業として、丸山地区町営住宅の整備が始まり、また、地場の生産力向上を図るため、アワビの陸上養殖を本格化させるとともに、食べる昆布の生産拡大を目指します。

さらに懸案となっておりました「道の駅」についても若い人を中心に議論を始めることとしております。

また、地元の魅力ある資源を活用し、交流人口の増加を目指し、岩部地区を拠点に「青の洞窟」などのクルージングを、まちづくり工房において開始することとしております。

平成三十年の節目の年に、町民一人ひとりが笑顔で元気に暮ら

町民の皆様、新年あけましておめでとうございませう。本年もご家族おそろいで輝かしい新春を迎えられ、心からお喜び申し上げます。

昨年、日本の大手企業のデータ改ざんなど技術立国日本の根幹を揺るがす事件が相次ぎ、また、九州北部豪雨などの災害も多くありました。

そのような中、上野動物園でパンダの赤ちゃんが誕生し、シシヤンシヤン（香香）と命名され、人々の心を癒す話題がありました。

当町では、一昨年春の低気圧で被害を受けた養殖昆布の施設が整備され、出荷当初の価値と全国的な品薄を反映し、過去最高額となる七億円を超える水揚げとなっております。

また、四月から施行された「福島町がんばる地元企業応援条例」が広く町民の方々に受け入れられ、漁業者・農業者及び商工・加工業・建設業等と幅広く

新年 あいさつ